

「小林直次郎先生のこと」

宮原 豊（9 組）

小林直次郎って誰？と聞いて、直ぐに名前と人物とが結びつくのは青木村出身者だけかもしれないです。あるいは、上田高校の同窓生なら、その名前はどこかで聞いたことがある・・・と思うかもしれません。

長野県上田高等学校創立 100 周年記念の「同窓会名簿」（2000 年 8 月 1 日刊）に長野県中学校上田支校の最初の卒業生が掲載されています。兎束（うづか）鍊次郎（上田町）、清須恒（上高井郡須坂町）、小林直次郎（青木村殿戸）の 3 人です。明治 17 年（1884 年）9 月に創設された上田支校を明治 18 年（1885 年）7 月に卒業していますから、この 3 人は上田支校の前身の小県郡立中学校時代に入学したものと考えられます。



ちなみに兎束鍊次郎は後に上田市の銀行家となり、子息二人は音楽家として活躍したことが知られています。長男武雄は東洋音楽学校で学び、帰郷して音楽教師（上田高校にも奉職）、次男龍夫は東京音楽学校を卒業して有名なヴァイオリニストになります。清須恒の消息は不明、小林直次郎については後述します。

その後の上田支校時代には、入学者名簿はあるものの卒業生名簿はなく、例えば五島（小林）慶太は明治 28 年（1895 年）4 月に入学、また後に慶應義塾野球部で活躍する宮原清、桜井弥一郎は翌 29 年 4 月に入学しています。明治 33 年（1900 年）4 月に創立された長野県上田中学校から明治 35 年 3 月に第 1 回卒業生 42 人が巣立ちました。明治 29 年上田支校に入学した 1 期生です。

さて、小林直次郎に戻ります。「上田人物誌」（1284 頁）によれば、「慶応 2 年（1866 年）9 月 19 日小県郡青木村殿戸に生まれる。明治 19 年（1886 年）長野県師範学校卒、明治 21 年青木小学校長、青木尋常高等小学校長を歴任し、同 42 年（1909 年）上田男子尋常高等小学校長、大正 3 年（1914 年）小県教育部会長、同 8 年（1919 年）上田尋常高等小学校長、同 9 年教職を退き青木村長、同 10 年（村長兼任のまま）長野県会議員、12 年副議長、昭和 4 年（1929 年）1 月青木村長辞任、同年 5 月 20 日逝去（享年 63 歳）」。

小林直次郎は生涯の大半を教育者として過ごしました。晩年村政に携わり、又県政壇上

に立ちましたが、その思想内容や経緯（社会観・国家観）の背景は、つねに教育者の立場からのものでした。青木学校長時代の明治 38 年には後の「青木時報」に連なる「同窓会報」を創刊。青木村長の時代の大正 9 年には青木村青年会を発足、同 10 年に「青木時報」が発刊されました。時は大正デモクラシーの頃、編集主任は栗林一石路です。小林直次郎の死後も、昭和 6 年、満州事変後に軍部が台頭する厳しい環境の中で「青木時報」は自由民権的な記事を掲載しました。さすがに対米戦争中(昭和 16 年～20 年)は刊行できなかったものの、戦後復刊し昭和 21 年～35 年まで続けました。「青木時報」には義民関係の記事も多く掲載され、青木学校長・青木村長を長く務めた小林直次郎により醸成された自主自立の精神は青木村の人々の間に今も脈々と流れているようです。

明治 42 年に上田尋常高等小学校長に就いた小林直次郎について「上田郷友会」月報（190908）に小林（五島）慶太が「上田小学校長小林直次郎君」として寄稿しています。これは慶太が明治 44 年に東京帝国大学を卒業して農商務省に勤務する 2 年前、翌年久米萬千代と結婚して五島姓になる前の慶太（27 歳）が寄稿したものです。

小林直次郎は五島慶太より 16 歳年長の大先輩であり、若かりし頃に慶太を青木学校に代用教員として採用してくれた恩人です。前述の「上田人物誌」からも、小林直次郎は小県上田地域、いや長野県内において当代一の知識人であり人格高潔で行動力のある正義の人であったことが窺えますが、上田郷友会寄稿文から若かりし頃の慶太の精神・人格形成に大きな影響を与えた人物であったことを知ることが出来ます。

この小林直次郎が上田尋常高等小学校長に転任した時の慶太による壮行文の最後の一節を紹介します。「・・・彼は遥かに長野県教育界にありては群鷄中の一鶴なり、青木村は其鴻翼を延ばすに餘りに小なり、強いて彼を留むるは国家人物経済上の損失なり、彼が為にまた国家教育の為を思へば余輩は寧ろ其上田に對するを祝するの一人なり。聊か舊師に對する感想の一部を披瀝して青木村の為に悲むと共に上田の為に祝すと云ふ」

青木学校校歌「常磐のみどり」は明治 33 年に中央で活躍する作詞家、作曲家に依頼して作られましたが、元は小林直次郎の「作意」によるものです。それは戦後も青木小中学校の 9 年間歌い続けられました。

弁護士として、喜寿になった今も第一線で活躍する東京青木会会長を務める畏友・櫻田喜貢穂君（7 組）の思考や行動の根底に、小林直次郎先生の実践した「社会正義」を垣間見る思いがします。

（2025 年 6 月 23 日記）

以上